

金城学院大学 文学部 音楽芸術学科

## 飯田 真樹 教授

「自分の気持ちに合う曲を作りたい」と中学生のころから作曲をはじめた飯田先生。厳しい指導を仰いだ作曲の師の教えや仕事など、さまざまな経験を通して「人と人がかかわる教育の仕事につきたい」と金城学院大学へ。現在は音楽芸術学科で音楽理論や作曲などを指導していらっしゃいます。基礎から応用まで系統的に積み上げるカリキュラムを作成、指導しながら「実践力を身につけ、人間力と音楽力を併せ持った人になってほしい」と日々学生たちに教えていらっしゃいます。



基礎を大切に幅広い学びを通して  
人間力と音楽力を備えた人に

飯田真樹教授／東京芸術大学卒、同大学院作曲専攻修了。日本現代音楽協会主催「現音秋の音楽展」の1984、1985年2期連続入選を経て、1987年日本現代音楽協会新人賞受賞。2008年に金城学院大学教授に就任。音楽理論、ソルフェージュ、作曲、即興演奏など幅広い指導を行うかたわら、作曲、教育・出版活動を行っている。全日本ピアノ指導者協会正会員、日本音楽学会会員、全日本音楽教育研究会所属。作曲作品や幼児・児童のためのピアノテキストなど著書多数。

## 作曲の先生から習った基礎が 今の指導の自信に繋がる

母の勧めで小学生からピアノを習っていました。当時は男の子がピアノを習うのはどこか軟弱なイメージがあり、やめたいと思ったこともありました。小学6年生のころ、父の影響でトランジスタラジオやアンプを自分で作るようになり、多くのクラシックレコードを聴くようになって徐々に音楽にのめり込んでいったのです。しかし、どんなにいい曲を聴いても、ときには自分の気分合わないフレーズもあります。「心地よく浸れる曲は、自分で作るしかない!」と思い立ち、中学2年生のころから自分で曲を作るようになりました。

高校に入ってから東京の作曲の先生のもとへ週1回通い、本格的に作曲を学びはじめました。基礎を大切にするととても厳しい先生で何度もくじけそうになりましたが、先生のおかげで確かな基礎が身につけ、今、こうして自信を持って学生に指導することができますと感謝しています。

## 子どもと音楽とのかかわりから 教えることの難しさを修学

大学に入ってから現代音楽を学びコンクールをめざす一方で、アルバイトで幼稚園・音楽教室での指導や小学2年生の女の子にピアノの個人指導も行いました。この子はとても気まぐれな性格でしたが、少しずつ私に心を開き、真面目に練習もするようになりました。ところがある日、再び練習をしてこなかったのが「また悪いクセが出た」と叱ったところ、レッスンをやめると言い出したのです。あとでわかったのですが、風邪で学校は休んだけれど私のレッスンは受けたいと無理をして来てくれたそうです。このことから人を教える難しさを知ると同時に感動を覚え、人と人がかかわる教育という仕事に興味を持つようになりました。

卒業後は作曲活動を行いつつ、民間の音楽関係企業へ就職し、子ども

向けの音楽教室用教材を作る多忙な日々を過ごしました。特に印象的だったのは「あなたが作る教材が何万人もの子どもに影響を与える」という先輩の言葉です。音楽の本質や教え方、伝え方についてあらためて考えさせられました。その後、異動した出版社でもピアノ導入テキストを制作。よりよいテキストを作るために既存の本を買い込んで、家に帰ってから必死に研究をしました。意外にも自分のアイデアが高く評価されたときはとても嬉しく、自分でも気づかなかった得意分野を見つけた気がしました。このようにさまざまな経験を積んだ企業生活でしたが、恩師より金城学院大学へのお誘いをいただき、「人を教え、育てる仕事にかかわってみたい」と教鞭を執ることに決めたのです。こうした企業での経験があってこそ、教師としての今の自分があると実感しています。

## 系統立ったカリキュラムを作り 社会で通用する人材を育成

現在は音楽理論、ソルフェージュ、作曲や和音の理論などを学生たちに教えています。就任当初は、音楽の道を進路に定めていない学生を相手に、教えることの難しさを感じていました。しかし学生の中には指導者をめざす学生もおり、「この子たちを頑張らせて育てよう」という思いを持ったことをきっかけに、本当に力がつく授業をしようと考えはじめたのです。力がつく授業とは、まず到達点を決めることから始まります。その到達点とはすなわち「社会に出て通用する人材になる」ということです。それには基礎から複数の授業を重ねて積み上げることが大切です。

## 飯田先生はどんな人!?

飯田ゼミの4年生・仲辻恭子さん、溝口維菜さん、加藤舞佑子さん、岩田明莉さんに、飯田先生について伺いました。「丁寧に優しい」「将来に合わせたアドバイスを親身になってしてくれる」などの声が聞かれ、授業でも「ポイントや問題点を明確に示してくれる」「可愛い絵を描いて教えてくれるので分かりやすい」など、学生一人ひとりを温かく見守られている、優しい人柄が窺えました。



飯田先生が手がけた  
テキストたち

す。たとえばピアノの指導者をめざす学生には基礎科目の積み重ねに加え「ピアノ教室レッスン実習」などの授業を設けることで、実践力を備えた人材になります。このように基礎から応用まで系統立ったカリキュラムを作ることで、音楽を学ぶ意識もより高まっていくのです。

学生にはこうした音楽の学びを身につけると同時に、人間力も身につけてもらいたいと思っています。人間力とは指導者として、また人として深い懐を持ち、信頼関係を作ることができる力です。人間力がなければ、どんな素晴らしい音楽の技術も社会では役に立たないでしょう。自分と音楽とのかかわりの本質を見つめ、学び、人間力と音楽力を備えて巣立ってほしい。そのためにこれからも音楽を幅広く教えていきたいと考えています。



若かりころの飯田先生(写真左端)

